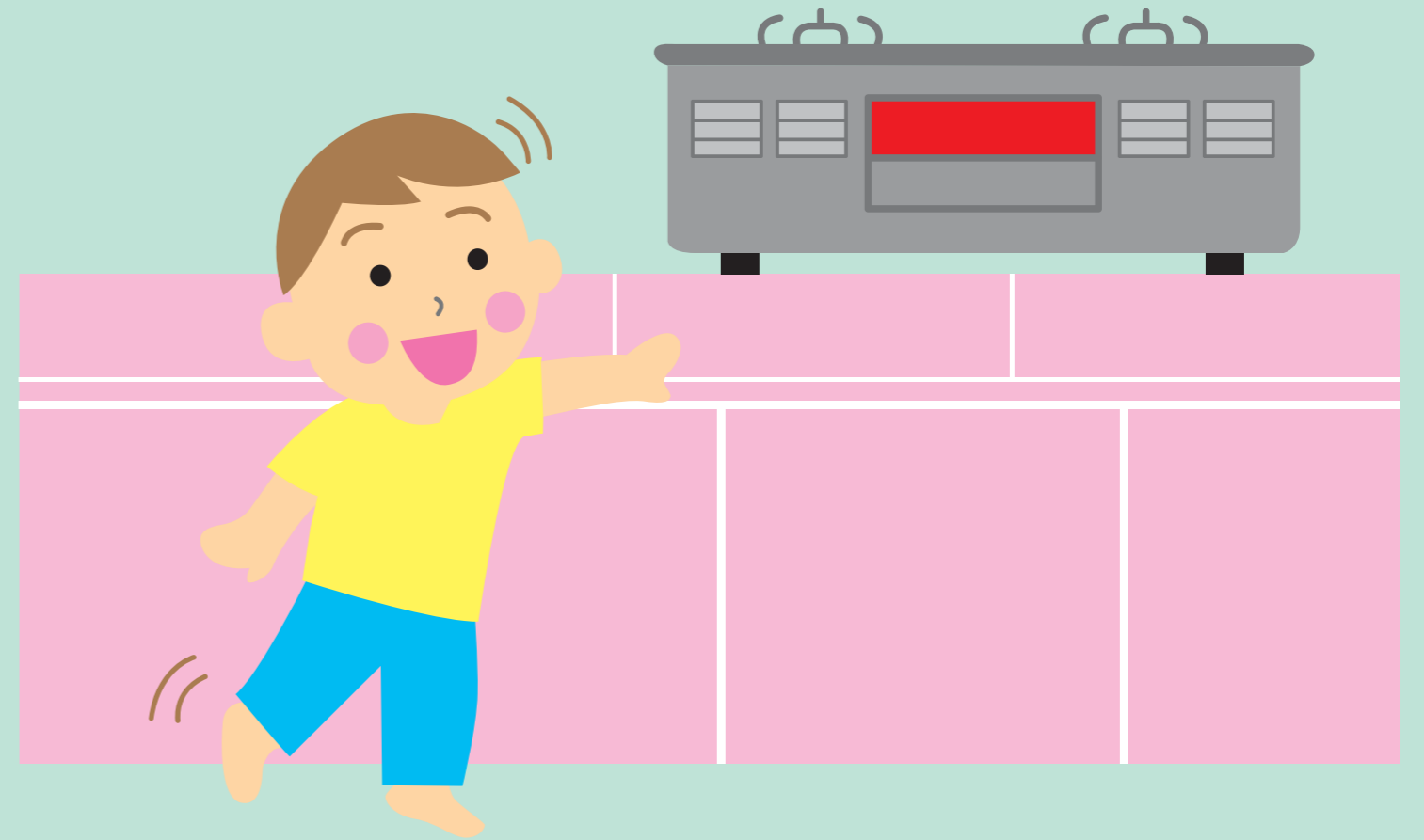


# 身近に潜む製品事故

## こんろのグリルでの子どものやけどにご注意ください！

(独立行政法人国民生活センター 平成29年9月21日公表)

- 1歳前後の子どもが、調理中や使用後のグリル扉等を触ることでやけどを負った事故が発生しています。
- グリル扉の温度を知るために実使用を想定したテストを行ったところ、グリル扉の窓が最高で約150℃に達し、使用後も15分程度は、50℃以上になっていました。
- 高温抑制扉は通常扉に比べ、最高温度が約30℃低減され、50℃以上の時間も短くなりました。



### 気をつけるポイント

- 使用中だけでなく使用後であってもしばらくはグリル窓が高温なので子どもをグリルに近づけないようにしましょう。
- グリルに触れた場合は、すぐにきれいな流水で冷却しましょう。水疱があれば可能な限り破らないようにし、冷却後は清潔なガーゼやタオル等を当てて医療機関を受診しましょう。
- グリル扉の温度が低くなれば、やけどの重症化のリスクを軽減できると考えられます。高温抑制されている商品の購入を検討すると良いでしょう。

## 刈払機（草刈機）の使用中的事故にご注意ください！

(消費者庁及び独立行政法人国民生活センター 平成29年7月20日公表)

- 刈払機には鋭利な刈刃がついており、使用中は高速で回転するため、慎重に取り扱わないと重篤なケガにつながる危険性があります。
- 刈払機の刈刃に石を接触させるテストを行ったところ、刈払機による飛散物は広い範囲に飛び散ることが確認されました。



### 気をつけるポイント

- 刈払機を使う際は、ヘルメット、保護メガネや防振手袋等、保護具を必ず装着し、事前に機器の点検を行ってから作業をしましょう。
- 草や異物が刈刃に詰まったら、必ず機器を止めてから取り除きましょう。
- 障害物や地面等にぶつかって起きる刈刃の跳ね（キックバック）に注意しましょう。
- 近くに人がいる場所や、自動車や家屋の近くで作業する場合は、小石や枝、硬い異物等を事前に除去するとともに、飛散を防止するネットを使用する等、十分な飛散防止対策を講じてください。
- 刈払機で作業中の人には近づかないでください。

# 身近に潜む製品事故

## 住宅用火災警報器の点検をしましょう！

(独立行政法人国民生活センター 平成29年9月7日公表)

- 警報器のテストを行ったところ、電池切れや故障時には音声や表示灯の点滅等によりそれらを知らせる機能を有していました。
- 消費者へのアンケート調査では、約5割の人が点検(作動確認)をしておらず、実際に取り付けられている警報器の中には、電池切れや故障を起こしているものもみられました。

### 気をつけるポイント

- 警報器の点検を怠ると、正常に機能しない状態で放置されてしまう可能性があるため、警報器の機能を維持するために、必ず定期的に点検を実施しましょう。
- 警報器は警報を発していなくても常にセンサーが作動し、監視しているので、本体の消耗・劣化を考慮し、10年を目安に本体を交換しましょう。



## 照明器具が関係する火災にご注意ください！

(NITE(独立行政法人製品評価技術基盤機構) 平成28年12月22日公表)

- 蛍光灯照明を長期間使用すると、器具内の安定器等が経年劣化し、破損・発煙・発火するおそれがあります。
- 投光器のライト(白熱電球)部分を可燃物で覆った場合、点灯してから25秒後に約250℃まで温度が上昇して発煙し、2分5秒後には約500℃まで温度が上昇して発火しました。
- 照明器具に合わない電球を使用すると、器具本体の過熱により周辺が過熱され、天井裏等気づかないところで火災となるおそれがあります。

### 気をつけるポイント

- 10年以上使用している蛍光灯照明は、販売店等に依頼して異常がないか確認することを推奨します。10年未満の製品でも、照明が明滅する、異常な音がする等、事故の予兆がみられたときには、新しい製品に交換してください。
- 白熱灯照明の近くには、可燃物を置いたり、器具や電球を布や紙等で覆ったりしないでください。
- 照明器具に適合した電球を使用しましょう。

